

優秀賞・飲酒運転撲滅特別賞

しあわせになればいいな

学校法人鎮西敬愛学園 敬愛小学校 2年 白石 あさひ

日曜日に、家ぞくでやき肉を食べに行きました。帰る時、父はあるいて帰ろうと言いました。わたしは、なんであるくのかなと思ったので聞いてみると、母が「それはね、パパはおさけをのんだから。おさけをのんで車をうんてんしてはいけないんだよ。頭が正じょうにはたらかなくて、あんぜんにうんてんができなくなるんだよ。」と教えてくれました。そういえば、父はおさけをのみに行くときはいつもタクシーをよんでいます。おさけをのむとわかっていたから、さいしょから車をうんてんしないで出かけていたんだと、わたしは気がつきました。

帰りみち、父がさびしそうだったので、わたしもいっしょにあるくことにしました。二人でさかみちをゆっくりあるいたり、はしったりしました。夕方のすずしい風が前から体中にあたって気もちよかったです。母のうんてんする車にのることもできたけど、父とあるいて帰るのもいいなと思いました。

いんしゅうんてんは、きびしくとりしまりをしていても、する人がなかなかへらず、まい年たくさんの方がじこにあっているそうです。わたしは、子どもでもなにかできることはないかなと思いました。だれかがおさけをのんでいてうんてんしようとしていたら、父や母に言おうと思います。そして、110 ばんにれんらくしてもらおうと思います。

いんしゅうんてんをなくすためには、大人がおさけをのんだら車をうんてんしないというきまりをまもることが大切だと思います。もしみんながまもることができたら、父とあるいたときのように日本もしあわせになると思います。